

# 森林環境教育教材の作成について

高尾森林ふれあい推進センター

専門官 磯田伸男

専門官 岩下祐子

## 1 はじめに

令和3年6月15日に閣議決定された、新たな森林・林業基本計画において、森林環境教育等の充実を図るため、「幼児教育や学校教育等における森林空間を利用した教育プログラム、人材育成の効果的な方策などの情報提供等を行う。また、関係府省や教育機関等とも連携し、小中学校の「総合的な学習の時間」等における学校林活動などを推進する。」とされました。

(1) 高尾森林ふれあい推進センターでは、小学校4～6年生を対象として、森林・林業について理解を深めてもらうために国有林のフィールドを利用した「森林教室」を年間20校程度に実施しています。また、木に親しんでもらう「木育」として「クラフト体験」を、幼稚園・保育所・特別支援学校(学級)などを対象として、年間40施設程度に実施しています。(写真1)



写真1 森林教室の様子

## 2 新たな教材の作成

当センターが森林教育の座学で使用しているパワーポイントは、イラストなどについて、インターネットのフリー素材等を利用しているため「幼児用の教材が無い」「一貫性に乏しい」等の理由により、改善が必要と考え、新たな教材の作成を試みました。

## 3 方向性

新たな教材を作成するに当たりセンターでは、以下の考え方を基準として作成する事としました。

- (1) 循環資源としての森林利用など、林業の視点を取り入れる。
- (2) 学習指導要領に沿った内容とするため、学校の意見を聞き取る。
- (3) センターオリジナル又は林野庁が作成した素材を利用し、フリー素材の利用は最小限度とする。
- (4) 30分程度の時間内で解説できるものとする。
- (5) 児童の集中が継続できるように工夫する。



図2 パワーポイント

## 4 種類と目的

教材の種類は、小学校の森林教室用と幼稚園・保育所のクラフト体験用とし、森林のはたらきや林業について子供たちが興味を示すことを目的としたものとししました。

- (1) 小学校の4～6年生を対象として座学用で使用するパワーポイント(図2)
- (2) 幼児等を対象とした紙芝居等の教材とししました。



図3 紙芝居

近畿中国局箕面森林ふれあい推進センターの作成した紙芝居『雨水のぼうけん』にナレーションを加えて動画を作成しました。（図3）

## 5 事前打ち合わせ及び実施結果

森林教室を予定している学校と、実施内容について、学習指導要領との適合性等について事前に打ち合わせを行いました。なお、森林教室の実施後に学校側にアンケートを実施した結果、ほとんどの学校が実施内容について「適合している」「必要性がある」と感じていただいています。

また、作文コンクールに応募いただいた作文には下記のような感想が目立ちました。

- (1) イラストがたくさんあってわかりやすい。
- (2) SDGs な生活をしていきたい。
- (3) 森林のことを知りたくなった。

## 6 まとめ

学校・施設等からの評価はかなり高かったと感じています。また、今回の教材の刷新は、オリジナルなイラストを使用しておりますので、高尾森林ふれあい推進センターのみならず、局管内の各署においても利用できるものとなっております。

今後は、局管内での共有化を図り、各署で利用する中で、内容の改善を図りながらより良い教材を作成して行きたいと考えています。